

調査観測計画の見直しの今後の進め方について

(1) 前回会議の概要 (2012/8/3 第57回会合)

事務局より、これまでの調査観測計画の概要について説明の後、今後の調査観測計画の見直しの方向性として、海溝型地震に関する観測内容や、調査海域の検討を行っていくことを事務局案として提示。それに対する主な意見は以下の通り。

- 地震動予測地図を見直す観点から言えば、これまで発生した被害地震が地震本部として評価してこなかった活断層で起こっていることから、活断層調査を重点化するというよりは、浅く広く行うことも重要ではないか。
- 長期評価の手法の検討は調査委員会で行っているはずであるので、その結論が出ない限り、観測計画はたてられない。まずは長期評価の手法の検討が先ではないか。
- 長期評価の手法の確定が先であるというのは明らかではあるが、地震調査員会側だけでなく、政策委員会側の議論をフィードバックさせて決めるのでもよいのではないか。

(2) 今後の方向性 (とりまとめ方法)

前回会議の海溝型だけでなく活断層の調査も見直すべきという意見や、観測計画自体が複数の報告書にまたがっており整理されていないこと、これまでの成果や研究開発の進捗、東北地方太平洋沖地震後の長期評価の見直し等を踏まえ、観測計画全体を見直して (整理する) みてはどうか。

(3) 今後考えられる議論のポイント (例)

【全体】

- ・これまでの課題や成果を整理した上で、各調査観測項目の今後の整備・調査の方針・目標の設定。
- ・財政状況が厳しい中で、整備費・維持費が低コストで、長期評価や警報等の災害情報提供等の多方面に活用できる観測の在り方(過度に高精度なものを追い求めるのではなく、防災上の費用対効果も多いに考慮すべき?)
- ・スクラップアンドビルドできるものはあるか?

【基盤的調査観測】

- ・「基盤的調査観測」に追加する項目はあるか?(ケーブル式海底地震計?海底地殻変動調査?)
- ・「調査観測の実施に努めるもの」に追加する項目はあるか?(歴史文書・津波堆積物調査?)

【活断層調査】

- ・活断層調査は主要活断層110断層に加えて、沿岸海域活断層、短い断層を選定して調査するスキームに発展してきたが今後どうするか？（活断層が数千あることを踏まえると、浅く広く調査するスキームも必要？）
- ・地下に潜っている活断層にどのように対応するか？
- ・海底の活断層にどのように対応するか？（位置・形状は？発生履歴は？）

【海溝型地震】

- ・海溝型地震の重点的調査観測を指定して調査してきたが、今後どうするか？（平成17年に①南海トラフ、②南関東M7、③宮城沖・根室沖・三陸沖北部を指定したが、これを見直すか？スキーム自体を見直すか？）
- ・海域の海底地震津波観測ケーブルをどの海域にどの順番で配置していくべきか？（どのような方式かインライン or ノード型）
- ・海底地殻変動観測の在り方をどうするか？（観測体制、観測点配置、観測技術等？）
- ・歴史文書・津波堆積物調査等の過去の地震の調査の在り方（体系的調査、データ流通の必要性？）

(4) 今後のスケジュール案

- 第 58 回（3月13日）
 - ・これまでの調査観測計画と各調査観測についての現状（概観）
 - ・長期評価における調査観測の課題（活断層）
 - ・今後の審議の進め方の確認

- 第 59 回（5月）
 - ・長期評価における調査観測の課題（海溝型）
 - ・各観測の現状（関係機関より維持・運用する上での課題も含め聴取）（海域編）
（海底地震・津波観測網、海底地殻変動観測、海底地殻構造・地形・活断層調査、津波堆積物調査等）

- 第 60 回（7月末）
 - ・各観測の現状を踏まえた今後の在り方（海域編）
 - ・H26 予算要求にむけた海域のプロジェクトの計画について

- 第 61 回（9月）
 - ・各観測の現状（関係機関より維持・運用する上での課題も含め聴取）（陸域編）
（陸上地震観測網、GPS 連続観測、合成開口レーダー、活断層調査、地殻構造調査等）

- 第 62 回（11月）
 - ・各観測の現状を踏まえた今後の在り方（陸域編）

- 第 63 回（12月）
 - ・報告書骨子案ドラフト

- 第 64 回（1月）
 - ・報告書案ドラフト

- ◇2月（一ヶ月間程度）
 - ・パブリックコメントの実施

- 第 65 回（3月上旬）
 - ・パブコメを踏まえた報告書修正・決定

- 3月中旬 政策委員会（審議）
- 3月下旬 地震本部会合（決定）